

清水小校長室だより No.25

2019. 11. 7(木) 文責：筒井

読書の秋です 第74回読書週間

11月3日の文化の日の前後2週間が「読書週間」です。10月27日から11月9日までです。

「読書週間」は、読書の楽しさを訴えることで、全ての人に本に親しむきっかけをつくって欲しいという考えに基づいた運動です。

図書委員の人たちが、時々児童集会で「オススメの本」の紹介をしてくれていますが、清水小の子ども達の読書の様子は、どうでしょうか。

低学年の子ども達は、毎日のように本を借りている人もいますが、やはり高学年になるほど、図書室の本を借りて読む人は、少ないように感じます。

明治時代の新聞には、もう「最近の子どもは、本を読まなくなった」という事が書かれていたそうですので、いつの時代も言われるのだと思いますが、確かに私達が子どもの頃よりも本を読まなくなったと思います。特に高学年になると、いろいろと忙しくなり、く読書にどっぷりひたるくという時間がなくなるのでしょう。

かなり前のことですが、ある番組で、その人の文章を読む速さは、小学校6年生くらいの段階で、ほぼ決まるということを話していました。

本好きな子どもにするには、まずは本に親しむことが大切ですが、無理矢理本を読みましょうでは、本好きにはなりません。本好きな子どもにするには、どうしたらいいのでしょうか？

まずは「秋の夜長にぜひ一冊の本」を読んでみてはどうでしょうか。

~~~~~ 終戦まもな ~~~~~

い昭和22年「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、第1回『読書週間』が開催された。

その反響は大きく、翌年の第2回から期間を10月27日～11月9日と定め、この運動は全国に広がっていった。そして『読書週間』は日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」となった。2005年には『読書週間』の初日10月27日が「文字・活字文化の日」に制定された。

今、電子メディアの発達によって、世界の情報



(読書週間ポスター)

伝達は大きく変容している。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、形作るのに『本』が重要な役割を果たすことは変わらない。

### 怒りをコントロールする力をつけよう アンガーマネジメント

『アンガーマネジメント』とは、怒りを自分でコントロールすること。

近年子どもが『キレやすくなった』と言われる。学校現場にいるとそれを実感す



(あいさつ運動 今朝)

ることも多いが、昨今のニュースなどを見ると子どもだけでな、高齢者も含めて誰もが『キレやすい社会』になっているのではないかとも思う。

『キレル』とは、この場合、く自分の気に入らないことがあると、すぐに暴言や暴力をふるうこと。自分の思い通りにならないと些細なことでも、激しく怒ること。くを言う。

一昨日も、授業中少しの事で『キレて』学校の物を壊してしまった子どもが謝りに来ていた。その時は、冷静になり反省しているのだが、壊れた物は元にはもどらない。4月以降、かべ、水そう、机、掃除道具入れ、表示板、…多くの物が同様に壊されている。更に困ることは、自分や他人を傷つけることだ。クールダウンして収まるまで力で抑制しなくてはならないこともある。

日常生活の中で、腹の立つことや怒りを感じることはいっぱいある。そんな時にどうすればいいだろうか。『アンガーマネジメント』の力もつけて欲しいと強く願う。

一昨日校長室に来た子どもと、怒る時は、3つのルール守って怒れるようになろうと約束した。

そのルールは次のとおり。

- ①自分を傷つけない。(心も体も)
- ②他人を傷つけない。(心も体も)
- ③物を壊さない。

(次回に続く?)

### 晴晴晴晴晴晴晴 雨が恋しい 晴晴晴晴晴晴晴

今日は、少し曇り空だが雨の気配はない。日曜日の早朝、グリーンハイツは少し降ったようだが、ほんのお湿りで終わってしまった。これだけ雨が降らないと…。運動場もカラカラに乾いて、子ども達が走る度に砂煙が舞っている。

今私の畑には、タマネギ、大根、人参、エンドウ、ほうれん草、チンゲンサイ、ブロッコリー…植えたばかりの野菜達も困っているだろう。